

約2万年前以来、海面は上昇し、約6000～7000年前には現海面より5～7 m高い位置に達しました。そのため、海は今よりも内陸に進入しました。考古学上で縄文時代早期に当たります。

この海の進退は、相対的な土地の隆起や沈降現象となり、河川の浸食営力の激しい時期や弱い時期という形で現れ、浜通りには5段の段丘が形成されました。

この時期の日本列島の各地に部分的な上昇・下降運動がみられ、上昇部分は山地に、下降部分は盆地になりました。福島県土でも新第三紀の終りごろ、白河－盛岡構造線（南北方向に生じた裂け目の一つ）より西の部分では地殻変動が起り、その一部が沈降して現在の盆地の原型ができました。その後も山地は隆起を、盆地では沈降が続き、周辺の山地から運びこまれる土砂は厚くつもりました。

一方、隆起を続ける奥羽山地では、洪積世中期（80万年～15万年前）ごろ、猫魔火山の噴火活動が始まり、続いて磐梯山の火山活動が、また、20万年前ごろには東吾妻火山や安達太良火山の噴火活動も始まり、県内に広く噴火による降灰がつもりました。